



第5世代単板用切断・分断・R面取り装置

マルチカッターで FPD分野に新風

株式会社シライテック

鉄工所の技術が結実した ガラス加工

主としてパソコン・テレビ・携帯電話等に使われる産業用ガラスの切断・加工装置を製作・販売するシライテック。精密な切断と加工を可能にした同社の装置は、国内大手メーカーに採用され幅広く支持されている。他にも面取り用装置、研磨装置、金属プレス機等、ガラスを中心とした加工装置の製作に一貫して高い技術を発揮してきた。

同社は部品加工や金型製作等を手がける鉄工所として出発した。産業用ガラスの分野に参入したのは約40年前。大手ガラスメーカーから自動車用ルームミラーの外周研磨機の発注を受けたことがきっかけだった。外国製品のカタログと略式組立図だけを基に、数か月後には国産第一号となる「後続車ライト反射防止ミラー加工機」を完成させた。これを機に、ガラス加工装置の分野へ本格的に進むこととなる。

「効率よく切り取る」

その数年後には、「ガラス業界の



常識」を取り入れ開発した、自動クロス切断機が完成。1枚のガラスを異寸法で切断するため、無駄なくガラスが採取できると評判になった。

「当時、産業用ガラス加工装置の業界は工作機械メーカーが多く、寸法精度にこだわったものはあつたが、ガラスを効率よく切り取るという概念は乏しかった。その『効率よく切り取る』というガラス業界では常識だったことを具現化したのが、自動クロス切断機。だから成功したので」と白井博社長と白井明最高経営統括責任者は口を揃える。

従来比3倍速のスクライパーも

同社はさらに、携帯電話用液晶パネルの製造装置の製作をきっかけに、電子基板用ガラスやFPD（フラットパネルディスプレイ）の分野にも進出する。同分野で特筆すべき革新技術は、「マルチカッター方式」。14インチのディスプレイ用ガラスの切断・加工時間を、それまでの35秒程度から3分の1以下の10秒前後にした。同社では、設計部の社員もまずは製造部に配属され、現場で「つくる」ことから学ぶ仕組みとなっており、それが高い技術の礎となるのである。

あらゆるニーズに対しては、常に「2ランク上の提案基準」で応えるのが方針だ。「コスト削減や生産性の向上を追求するのは当然。それらを含めたライン全体の装置構成に至るまでが、当社の提案です」と白井最高経営統括責任者は胸を張る。

最近では、「CIS系薄膜太陽電池用スクライパー（切断機）」の

開発に注力。ガラス本体もガラスを載せた装置も、そしてレーザーも同時に動かすことで加工速度を上げ、従来比3倍の生産を可能にした。この新たな装置を足がかりに、欧米やアジア各国へ、グローバルな展開を構想中だ。

主な事業内容

LCD・PDP用電子基板ガラス加工ライン、LCD用薄板ガラス切断機、LCD用エッジベリングマシンの開発・製造・販売等



白井 博さん
代表取締役



白井 明さん
最高経営統括責任者

株式会社シライテック

Company Profile

住所／〒577-0835
大阪府東大阪市柏田西3-5-21
創業／昭和35年6月
設立／昭和37年7月
資本金／1,200万円
従業員／110名（平成21年1月現在）
TEL／06-6728-7615
FAX／06-6720-2390

関西
19

<http://www.shirai-tech.co.jp/>